

基本目標Ⅴ

学び・スポーツ・文化が結ぶ 心つながるまちづくり

(教育・文化)

<基本施策>

1. 子どもたちの教育の充実
2. 家庭と地域の教育力の向上
3. 心を豊かにする生涯学習の推進
4. 歴史、伝統文化の継承と活用

基本施策1 子どもたちの教育の充実

現状と課題

- 町ではユネスコエコパーク登録を機に、町内すべての小中学校がユネスコスクールに加盟し、郷土学習「只見学」を中心とした持続可能な開発のための教育（ESD）を推進してきました。
- 各学校は学校運営協議会を有し、地域と連携し郷土を知るとともに、地域課題の解決に取り組んでいます。特に只見中学校の新聞紙レジバッグやペットボトルフリーマンデーの取り組みは、全国的にも評価を得る結果となっています。
- 現在、町内の3つの小学校においては、学齢人口の減少により、すべての学校が複式学級となっています。
- ▲ 只見町小学校改革審議会の答申により、小学校統合の方針が決定されましたので、速やかな小学校統合の推進と教育環境の充実が求められます。
- 学力向上と進路実現については、レインボープランによりこども園から只見高校まで連携した指導を行うとともに、町営の「心志塾」では只見高校生の学力向上にも取り組んでいます。
- 只見高校は地域協働推進校として、地域の担い手づくりのために地域協働の学習に取り組んできました。これらの活動の成果として、小規模校ながら国公立大学への進学実績も見られます。
- ▲ 只見高校への進学者は減少傾向にあり、定員の50%程度の入学者となっています。このため、山村教育留学制度による生徒の確保と併せて、町内の子どもたちが進学先として選択できる魅力を高める努力を続ける必要があります。

取組方針

- 只見愛を持ち、ふるさとの豊かな存続に寄与できる人材財の育成を図るため、教育環境の充実に努めます。と魅力ある学びの場の提供に努めます。



只見中学生による新聞レジバッグ教室

具体施策と主な取り組み内容

(1) 豊かな心と健やかな身体の育成

- ① 「総合的な学習の時間」を柱とした ESD の推進と ESD を担う教員・地域人材の育成
- ② 幼児教育の充実
- ③ 特別支援教育のさらなる質の向上と体制整備
- ④ 多様性を認め、すべての子どもと一緒に学ぶインクルーシブ教育の推進
- ⑤ 郷土愛・食育、地産地消を意識した心の育成
- ⑥ 読書活動の推進
- ⑦ 子どもが安心して学び、育つための環境を整える支援（SSW の設置）

(2) 只見町を担う人財育成のための確かな学力の向上

- ① 幼・小・中・高連携教育の強化
- ② 町営「心志塾」や大学生などを活用した学習支援体制の充実
- ③ 地域課題解決に取り組む学習活動及びその実現に向けた取り組み支援

(3) 教育環境、施設、設備の改善・充実

- ① こども園・統合小学校の整備
- ② 安心・安全な通学環境の整備
- ③ 子どもの体力向上、スポーツ環境の整備
- ④ 学校 DX の推進
- ⑤ 県立只見高等学校振興対策の充実

目標指標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
ふくしま学力調査において 「自分にはよいところがある」と答えた割合	(R7) 小6 61.6% 中2 80.0%	小6 80.0% 中2 80.0%
ふくしま学力調査において 「今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心をもっている」と答えた割合	(R7) 小6 73.6% 中2 72.0%	小6 80.0% 中2 80.0%
奥会津地域における次世代の進路・意識調査において 「進学や就職でいったん外には出るが、いずれは自分の地域や奥会津地域に住みたいと思う」と答えた割合	50.0%	70.0%
奥会津地域における次世代の進路・意識調査において 「地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい」と答えた割合	56.6%	70.0%

該当する SDGs



基本施策2 家庭と地域の教育力の向上

現状と課題

- 家庭はすべての教育の出発点と言われており、子どもの基本的な生活習慣、倫理観・自制心や自立心などの人格形成は、家庭や取り巻く地域社会によって育まれます。しかし、現代社会は社会構造や産業構造の変化により、少子化と核家族化が進むことで、命の尊さや社会生活を送る上でのモラルやしつけを学ぶ機会が減少しています。また、SNSの普及などによる少年犯罪の多様化と低年齢化、いじめや不登校が増加しており、社会に出てからも自制心を欠く行動が全国的に問題となっています。
- ▲ 本町でも、核家族化や共働き世帯の増加により、子育てに対する悩みや不安を抱える家庭が多くなっています。家庭と地域が連携して子育て支援を行うことが求められています。

取組方針

- 地域全体で子どもを見守り、育てる体制を強化し、子どもが安心できる居場所づくりを推進します。



具体施策と主な取り組み内容

(1) 家庭教育支援

- ① 保護者からの子育て相談体制の充実（こども家庭センターの設置や放課後子どもクラブの活用）
- ② 情報モラル教育の推進
- ③ 家や学校以外に子どもが安心して過ごせる「第3の居場所」の設置
- ④ 保護者が悩みを共有する場の確保

(2) 多世代交流の促進

- ① 公民館等を利用した世代間の交流
- ② 高校生や若者による情報発信や交流の促進
- ③ 地域社会全体が連携し、子どもの成長を支える教育体制の推進
- ④ 只見の資源（ひと・もの・こと）を生かした体験活動の実施

目標指標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
子育て支援ニーズ調査において 就学前・小学生の保護者で子育てに対して相談できる 人がいる割合（配偶者・パートナー以外で）	(平均値) 75%	(平均値) 85%
子育て支援ニーズ調査において 中高生のうち「悩みや心配ごとの相談相手がない」と 答えた割合	8%	0%

該当する SDGs



基本施策3 心を豊かにする生涯学習の推進

現状と課題

- 生涯学習とは、一人一人が生涯にわたって豊かな人生を送ることができるように、多様な機会や場所で学習し、その成果を地域社会に生かすことのできる社会の実現を図ることを理念としています。
- 町では、中央公民館事業として各種学級や講座を開設するとともに、3つの公民館において自主講座にも取り組んできました。
- ▲ 今後は、各種講座や自主講座で学んだ知識や技術を広く地域に活かす仕組みづくりが求められます。
- ▲ 文化協会を中心とした文化芸術活動は、高齢化などにより活動の継続が困難となる団体も出てきています。
- ▲ 就業形態や生活様式の変化により、地域活動をけん引してきた青年組織の活動は縮小しており、地域活力の低下が課題となっています。
- ▲ 地域活力を高めるために、多様な主体がそれぞれの能力を生かして相互に連携し、地域活動を支える体制を整えることが必要です。
- 生涯スポーツは、体力や年齢、目的に応じてスポーツを楽しむことで、健康増進や心身のリフレッシュ、仲間との交流など、生活の質を高め、豊かな人生を送るための活動です。しかし、人口減少や少子化により、スポーツ団体の構成員は減少しています。
- ▲ 特に冬期間は活動が低下する傾向にあるため、1年間を通じてスポーツが行える環境の整備や新たなスポーツの掘り起こしなど、多様な参画機会の拡充と体制づくりを図る必要があります。

取組方針

- 多様な人材や団体の連携を深め、世代を超えた学習機会や活動づくりを推進します。
- 誰もが楽しめる学びと交流、健康づくりを進め、心豊かな地域社会の実現を目指します。

具体施策と主な取り組み内容

(1) 生涯学習機会の提供と推進

- ① 知識や技術を持った人の発掘・活用とネットワーク化
- ② 文化協会や各活動団体への継続的な支援と担い手の育成の促進
- ③ 公民館講座等を通じた様々な世代への生涯学習機会の創出と継続的な支援
- ④ ESD を通じた郷土学習・体験学習の推進

(2) 生涯スポーツの推進と健康増進

- ① 総合型地域スポーツクラブとの連携強化
- ② スポーツ施設の計画的な維持管理
- ③ 地域スポーツを支える指導者の育成と確保
- ④ スポーツを通じた多世代交流事業の推進
- ⑤ ニュースポーツやeスポーツなどの多様な参画機会の創出

目標指標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
公民館活動の利用者数 (延べ)	5,972人	6,500人
社会体育施設利用者数	28,743人	35,000人



eスポーツによる世代交流

該当する SDGs



基本施策4 歴史、伝統文化の継承と活用

現状と課題

- 地域の自然や歴史、伝統文化の価値を理解することは、町民が自信と誇りを持って郷土を愛し未来を考える機会につながります。
- ▲ 本町の文化財は、歴史的・学術的な価値を持つものが多く、郷土の文化遺産として後世に受け継ぐ必要があります。有形文化財（建造物、古文書、考古資料など）や無形文化財（年中行事や郷土芸能など）は、郷土の貴重な文化遺産として次世代へ継承するために、保護・活用が重要です。しかし、後継者不足が大きな問題となっています。
- 町内には、国指定重要文化財の収蔵・展示を行う「ただみ・モノとくらしのミュージアム」が、令和4（2022）年に公立博物館として開館しているほか、只見町の発展の礎となり、ダム湖に沈んだ田子倉集落を記念する「ふるさと館田子倉」や、幕末に八十里を越え只見の地で終焉を迎えた越後長岡藩家老・河井継之助に関する資料を展示した「河井継之助記念館」が開設されています。これらの施設をさらに活用するとともに、町内外に向けて文化財や地域の歴史への関心を高める取り組みが求められます。
- ▲ 伝統文化については、後継者不足により文化そのものの継承が困難になり、消滅の危機も発生しています。そのため、後継者の確保とあわせて、次世代へ継承するための取り組みが求められます。
- また、歴史の道八十里越の果たした役割と価値を再認識し、国道289号の開通に合わせて八十里越新道の国指定史跡の指定を目指します。史跡の指定により新たな活用を見出し、地域資源の保全や利活用とともに新潟県三条市、魚沼市との広域的連携による交流促進が期待されます。

取組方針

- 地域の歴史や伝統文化の保存と調査研究を進め、郷土への自信と誇りを醸成し、歴史、伝統文化の継承と活用を図ります。



明和小学校伝統芸能発表会

具体施策と主な取組み内容

(1) 調査・保護・継承

- ① 地域住民の視点による新たな文化・人材資源の掘り起こし
- ② 文化財の調査・研究事業の推進
- ③ 文化財の保存・修復、適切な維持管理
- ④ 多様な人材による伝統芸能の継承
- ⑤ 只見学を活用した地域の歴史・伝統文化伝承者の育成
- ⑥ 民芸品などの伝統技術の維持、継承

(2) 活用・振興

- ① 只見の自然や伝統文化についての体験活動の実施
- ② 歴史・文化講演会の開催
- ③ ただみ・モノとくらしのミュージアムなど文化施設の活用
- ④ 只見学講座および検定の実施
- ⑤ 文化財資源のデータベース化と情報発信
- ⑥ 八十里越の利活用推進

目標指標

指標名	現状値 (R6)	目標値 (R12)
叶津番所・旧五十嵐家住宅入館者数	1,860人	2,000人
ただみモノとくらしのミュージアム町民利用者数（年間人数）	683人	1,000人
只見おもしろ学検定町民受検人数	117人	130人

該当する SDGs





ESD 地域成果発表会